

会派幹事長あいさつ



新しい目黒を皆さんと共に

自由民主党目黒区議団・区民の会 幹事長 河野 陽子

このたび、目黒区議会議員選挙で当選しました自由民主党の議員9名と、無所属の議員1名の参加を得て、新しい会派を結成しました。幅広い年代の議員、10名中4名は女性議員の構成となり、区民の皆さまに身近な政治の場である区政を、皆さまの声をしっかり聞きながら未来に進める役割を果たしてい

きたいと考えております。

現在の世界情勢による先の見えない物価高騰は、私たちの生活に深刻な影響を及ぼしています。またこの先、2025年には団塊の世代が75歳となり高齢化社会が一段と進み、一方で昨年高齢化社会が一段と進み、一方で昨年ある区政を、皆さまの声をしっかり聞きながら未来に進める役割を果たしてい

は待ったなしの状況となっています。今後到来する労働人口減少社会を見据えれば、区においてもデジタル化推進は急務です。デジタル化により書かない窓口、行かない区役所の実現、チャットGPT等最新技術の活用による行政の業務効率化を進める一方、人にしかできない信頼と真心をもった充実したサービス提供、支援が必要なかたにはしっかりと支援を届けていく体制強化により、多様化する価値観、急速に変化する時代の流れにあって、誰一人取り残さない目黒区を実現していかなけれ

ばなりません。

現代社会ならではのさまざまな複合的課題に向き合い、新しい時代を見据える先見性を持ち、時には国・都とも連携をしながら、地域共生社会を目指し、子育て支援、教育、高齢社会対策、防災、動物に至る幅広い分野において、また、老朽化施設更新・中学校統合・ふるさと納税による減収等山積する目黒区の課題に、それぞれの議員が力を出し合い、区民の皆さまにとって一番頼りにできる存在を目指してまいります。



私たちがめぐろの未来をつくります

めぐろの未来をつくる会 幹事長 かいでん 和弘

皆さん、こんにちは。新会派「めぐろの未来をつくる会」です。私たちについて

無所属の議員3人、都民ファーストの会所属の議員2人、国民民主党所属の議員2人の計7人で、目黒区議会で2番目に大きな会派(チーム)を結成しました。結成に至る思い

私たち7人は、それぞれが異なるパツ

クグラウンドを持って議員になりましたので、それぞれが異なる強みを持っている議員同士ではないからこそ、区民の皆さんの想いをさまざまな視点でくみ取ることができます。

「7人がお互いにアイデアを出し合っで、議論をしていけば必ず、これまでの区役所や区議会には無かった新しい政

策提案ができる」との確信から、今回、一つのチームに集いました。4年間で取り組むこと

まずは防災・減災、行政のデジタル化推進、物価高騰対策、待機学童問題、出遅れているLGBTQ(※1)対応や児童相談所設置など、待ったなしの課題解決・状況改善に力を尽くします。

さらに、目黒区にはそうした短期の課題のみならず、より長期的な課題、例えば人口減少・少子高齢化対策や、収支悪化が確実視される区財政の適正化、子ども・若者支援策の充実、介護予防、孤立死対策などの大きな懸案事項

も山積みです。私たちはこうした、30年先の未来を見据えて今のうちから取り組んでいかなければならない大きな区政改革にも、積極的に取り組みます。めぐろの未来をつくる会

コロナ禍を経て、世の中は大きく変わり始めました。そしてそんな変革の時代に新会派を結成した私たち自身もまた、誰よりも強く「目黒区政を変えたい」と思っている7人です。これからの4年間、常に未来の目黒区を想像しながらの、また区民の皆さんのことを思い浮かべながらの政策提案を重ね、めぐろの未来をつくってまいります。



混迷し病んでいる今の時代に、寄りそう姿勢で挑みます

公明党目黒区議団 幹事長 関 けんいち

今年4月の目黒区議会議員選挙で、公明党目黒区議団は5名が当選し、新たな陣容として、5期目2名、4期目2名、新人1名(女性議員)の構成となりました。今日まで培ってきた経験と、新しい視点の融合を図り、より重層的に区民福祉の充実に努めて参りますので、どうぞよろしくお願い致します。

激動の前期4年間は、新型コロナウイルス感染症への対応に多くの時間が割かれま

した。いかに感染拡大を止めるか、区民生活をどう守るか等、問題が上がるたびに行政を駆けずり回りました。ワクチン開発が進むと、接種をいかにスムーズに行うかに力点が変わりました。我が会派は、接種予約について、区公式LINE登録を積極的に呼び掛け、分かる人が予約を手伝うようお願いしたり、接種後の会場で次回予約をお手伝いさせたりするなど、利用者目線で提案し、対策が

奏功して、接種率を高める事が出来たと思います。また、国会議員と連携し、いち早く国の情報を区に、区の状況を国に伝える事で、現場を踏まえた適切な対応も図れました。過去最大の危機に、公明党のネットワークを最大限活用してまいりました。

さて、今年5月8日より新型コロナウイルス感染症は感染症法上これまでの2類相当から5類へと移行となり、アフターコロナを迎えました。経済活動が活発になり、コロナ禍で進めたデジタル化を、誰ひとり取り残される事なく進め、さらに、誰もが分かりやすく、使いやすいようにしなければなりません。

を実現するため、日本共産党目黒区議団は全力をあげます。

国の方針によって、コロナが5類に引き下げられる中、新たな感染拡大が懸念されています。次の流行に備え、保健所の拡充も含めた、抜本的な体制強化を求めています。

また、昨今の物価高騰で大きな影響が出る低所得者や生活困窮者への支援に努めます。子育て支援では、出生数が最少を更新する中、出産・子育ての本気の支援が必要です。しかし目黒区は、経費削減のため区立の保育園、学童・児童館の民営化を次々と進めています。住民の声を聞き、民営化は見

直すべきです。国政では、岸田政権が今年度から5年間の軍事費に43兆円もつぎ込む大軍拡を推進しています。平和憲法が脅かされる今、平和憲法を擁護する平和都市宣言区の目黒区が、国に対して憲法遵守の声を上げることを求めます。また、ジェンダー平等のために性暴力やハラスメントの根絶や、LGBT(※1)差別解消と婚姻の平等を推進するため、目黒区にパートナーシップ条例を制定します。平和と人権が輝く目黒区をつくるため、全力をあげます。



多様な地域コミュニティが共存し、さまざまな居場所があるまちへ

目黒区議会立憲民主党 幹事長 山本 ひろこ

4月の区議会議員選挙にて、立憲民主党から当選した4名で会派を組みました。新人2名と元職、現職から成る少数会派ですが、それぞれユニークな専門性を持った議員集団です。

コロナ禍以降、社会状況は大きく変わり、少子高齢化も加速する一途で、将来予測がかなり難しい状況です。システム開発においてよく言われますが、

先に全計画を完璧に作ってから動き始める予測型の手法では、柔軟性がなく、状況の変化による途中変更が難しくなってしまいます。それゆえに、適応型として初期計画に基づき、実行しながら随時変更していくという手法が多く用いられるようになってきましたが、行政にもまさに同じことが言えます。

区政を問う

質問と答弁 要旨

一般質問は、13人の議員から広範囲の区政課題を質問し、区長等から答弁がありました。その一部を紹介します。

詳細は、ホームページのインターネット議会中継(下コード)で録画をご覧ください。



一般質問



補聴器購入助成の実現を！不適切保育はNO！

自由民主党目黒区議団・区民の会 河野 陽子 議員

加齢に伴う難聴対策について

問 加齢に伴う難聴には補聴器が有効であり、装着後は専門家の指導・調整等が必要である。区による補聴

器の有効性の周知・啓発・経済的支援を実現すべきだがいかがか。**区長** 今年度中に、助成制度を開始する。周知・啓発を行うとともに、医療機



子どもたちが安心して生き生きと暮らせる社会に！

めぐろの未来をつくる会 山村 まい 議員

問 不適切保育が発覚するためには自治体の姿勢が大変重要であると考えるが、目黒区は「不適切保育を許さない」という強い意志を持っているのか。

区長 区は、不適切保育を許さない、その思いをしっかりと認識し、対応している。**問** 「排せつしている姿を他の人に見られたくない」と訴える幼児に対し

て、扉ありトイレがあるにもかかわらず、扉なしトイレを強制させることは不適切保育に該当すると認識するか。

区長 こども家庭庁が策定した「保育所等における虐待等の防止及び発生時の対応等に関するガイドライン」に定義している虐待に明らかに該当するとまでは言えないが、虐待等と疑われる事実、いわゆる不適切な保育に該当する

可能性が高い。**保育園での昼寝強制について****問** 年中・年長クラスでの昼寝時間が子どもに悪影響を及ぼすのではないかと検討すべきではないか。

区長 保護者と情報連携・意見交換しながら、子ども一人一人の生活リズムに合わせた適切な午睡が各保育園で実施されるよう、引き続き、指導・助言する。

であるDカフェとの連携による普及啓発は有効と考えるいかがか。**区長** (1)区内の事業者等に対して、紹介する機会を提供できるよう取り組む。(2)区民向けに適切なケア技法や介護者支援の施策を周知する機会を設けていく。(3)事業者の自主性を尊重しつつ、啓発や情報提供に努める。

放課後等デイサービスの支援

問 (1)人手不足解消の取り組みは。(2)報酬の差分の支援ができないか。**区長** (1)「めぐろ福祉ごと相談会」も含め、今後も効果的な取り組みを検討し実施する。(2)事業所の経営のため欠かせないものと認識しており、国の報酬改定の動向に注視していく。

【用語解説】

※1 **LGBT(Q)** レズビアン(女性同性愛者)、ゲイ(男性同性愛者)、バイセクシュアル(両性愛者)、トランスジェンダー(性自認が出生時に割り当てられた性別と一致しない人)の頭文字を合わせた言葉。クエスチョニング(自分の性の在り方を決めていない人)を加えて「LGBTQ」などと表記される場合もあるが、いずれも性的マイノリティの総称として使用されている。

※2 **ユマニチュード** 人間の尊厳を保持した哲学を持つ認知症の介護技法。